

韓国は、もうすぐ秋夕（チュソク）を迎えます。

秋夕とは、旧暦の8月15日のことで、秋夕当日とその前後各1日が公休日となっています。

今年は、9月25日が秋夕のため、ちょっとした大型連休になります。

秋夕の韓国はどんなふうかという、日本のお盆と同じように、故郷へ帰郷したり、家族や親族が集まったりする人が多く、公共交通機関のチケットも早めに予約しないと取れない、道路も大渋滞になると聞きました。

韓国は、人口の約半分が首都圏（ソウル、仁川市、京畿道）に集中しており、この大部分が故郷へ帰るので、これを民族の大移動というそうです。

普段は、人がたくさんいてにぎやかなソウル市内ですが、民族大移動の後とはこういうものなのでしょうか、殆どのお店が閉まります。

日本なら、「お休みの日こそお客さんがたくさん来る＝お店は開ける」と考えそうなものですが、昨年から事務所にいる人から、お昼ご飯を食べる場所を探すのにも苦労したと聞きました。

とはいっても、最近では少しずつ変化が見られ、外国人が多い明洞辺りでは開いているお店もたくさんあるとも聞きました。「10年前に比べると」とのことですが・・・

さて、韓国の秋夕の時にかけせないものの一つに、お世話になっている方々に感謝の気持ちを表す贈り物があります。まあ、日本でいうお中元ですね。

このため、秋夕前のスーパーマーケットにはギフトセットがところ狭く並べられ、雰囲気盛り上げるためか、売り場にいるお店の人は韓服（チマチョゴリ）を着ています。

贈り物の内容としては、油や洗剤、コーヒー、ハムの詰め合わせ等、日本の贈り物とかわらないものが多くありますが、中には、韓国らしい贈り物もあります。

私が、一番韓国らしいと思ったものはお餅の詰め合わせです。

お餅といっても、切り餅やかき餅ではなく、あま～いお餅です。

中にあんこが入っていたり、ナツメがまぶしてあったりと、色とりどりに綺麗な詰め合わせにされていますが、いったい誰がそんなに食べるの？と聞きたくなるほどたくさん入っています。

また、最近では、秋夕のときに故郷に帰れない人たち向けに、故郷にいる家族へのメッセージをビデオに録画してプレゼントと一緒に届けるという新しい商売まで生まれたそうです。

しかも、ただ届けるだけではなく、ギターを持った配達員が家まで行って、玄関でギターを弾き語りながら渡すといった手の込んだものだそう、、、

日本の玄関先でギターの弾き語りをした日には、恥ずかしいからやめてくれ。と言われそうなものですが、喜んでもらいたいという気持ちをストレートに出すあたりさすが韓国ですね！

日本の年末を思わせるような街の慌ただしさに、お盆のときにこれなら年末はどんなふうになるの？と、いらぬ心配をしたりしてしまいましたが、まずは、初めて体験する秋夕をじっくり味わいたいと思います。